

エゾマツ



サワシバ



ミズナラ



パッコヤナギ



ベニイタヤ

No.60

2002. 3. 30

北海道ボランティア・レンジャー協議会



目

次



1. 巻頭言 新しい年度を迎えるにあたって……………会長 川端 功治 (1)
2. 新体制に望む 1月以降の活動…………… (3)
3. 会員の声…………… (4)
4. 各部の反省…………… (8)
5. 本の紹介…………… (9)
6. 私の一名山 富士山登山雑感……………桶田 岩男 (11)
7. 私の一名山 羊蹄山 (蝦夷富士) ……………川端 功治 (13)
8. キーワード (生物多様性) …………… (18)
9. 自然観察会情報…………… (20)
10. 編集後記…………… (22)

新しい年度を迎えるに当たって

会長 川端 功 治

早くも新年度の総会を迎える運びとなり、越し方を振り返り反省を深め、新しい抱負を語り合う絶好の機会でもあります。

あと46億年経てば地球は自爆して粉々になって宇宙のゴミとなることを説き聞かされてもあまりにもスケールがデカ過ぎて途惑うばかりですが、その爆発迄に何十年か以前に地球は既に岩山と石礫の塊になってしまうと言う説は21世紀を迎えた地球上の生物の盛衰で、来るべき「沈黙の地球」の姿が予測出来ると言います。

滅びゆく運命の生物は異常繁殖を始め最後の食べ物も急いで食い尽くします。警戒人口を越えた人種は何神様の正義と何神様の正義とが激突して、果てし無く殺し合いが続き、第2次世界大戦の犠牲者を遙かに越えても、それ以上の人口が増え続けております。

エネルギー源の奪い合いとその浪費からくる大気の汚染は、食料不足の恐怖を上回るものがあり、そのテンポで試算すると、これから何年人間様が生き延びられるか判断出来る21世紀が到来したことになります。

都会の人々が観察会で森の木や草花を眺めて、心が癒されたとして、喜んで帰ります。ところが森の生物達はじろじろ眺められて反対にストレスが溜まって人間嫌いに陥っているのではないか。このデリケートな生物と人間の係わり合いについて詳しいドロ亀先生（元東大演習林長 高橋延清氏 1月30日没）に伺ったら言下に「川端君の目線は高すぎる、腹這いになれ」と命令して、自らも腹這いになり「カエルさん、今日は人が沢山来てご機嫌斜めかな?」。カエルはピョンと跳ねたら「君も跳ねろ!」と指示して先生も跳ねた。その跳ね方が巧い、慣れていると言った感じ。それから延々とカエルとの対話が続いたが何時の間にか静かになったと思ったら、お眠りの鼾が聞こえてきたので、「失礼します」と小声で挨拶して退去

しましたが、先生独特の秘伝教授法をしっかりと心得ました。

蝶よ花よと美しさを売り物にするツアーガイド者と違って先生は自然界に割って入り、人間との共存をつきつけます。トドマツの幼木に蔦が絡んで押し曲げていると、直ちに引きずり下ろし「お前さんよりトドマツの方が大切なんだ」と一喝して心止めされます。エゾマツの巨木で、心腐れ菌を発見すると遠目には素晴らしい景観木でも切り捨てる処置を執るのは、この倒木にしか発芽成長出来ないエゾマツの種子が、母親木のもつ根菌を求めているからです。かくして富良野の東大演習林を北海道一の美林に創り上げたのは絶賛に値いし、自然を国民の資産として活用を主張する林業技術と放置してその荒廃美を耽美する自然放置論者との論争に良き指標となりましょう。

本誌No59号(先月号)の15頁「子供樹木博士」認定!をもう一度ご覧ください。我が会友小林文男レンジャーの素晴らしい業績に最高の敬意と称賛の言葉を贈りたいと思います。これこそ「ドロ亀先生」の言う生物と人間の共存共栄を図る契約をチビッコ達がやってくれた事になります。先ずは木の戸籍調べから始まりました。そして木の身体検査では高さは「カラス止まり」迄の樹高を計る事を覚えたようです。樹木の成長点は頂上にありますので、当年度に成長した部分は未熟で固い幹化していないから樹幹折解では枝に合算され立木材積表でも幹に含まれていません。現場では判り易いように、カラスが止まってグンニャリ曲がっても折れない部分をカラス止まりと略称されているのです。

チビッコ博士達はこの木がマイホームの柱や机になり本や新聞になると思いながら、草刈り枝打ちをして、大切にしておげるから宜しく頼むと木に握手を求めたことでしょう。この場にドロ亀先生が居たら、飛びあがって喜んだ事と思います。

固有名詞に捉らわれない観察会が望ましいと言われております。上述の小林レンジャーの快挙は正に好例と言えましょう。どうかご意見をお寄せください。

新体制に望む

森林の植性の組成や構造が時間とともに移り変わっていく現象を植性遷移と呼びます。この植性遷移を経て森林は最終的に安定した構造と組成をもつ極相林になります。極相林も様々な更新（ギャップ更新とも呼びます）をしながら森林の多様性を維持していきます。

1990年ボランティア・レンジャー協議会が発足して15年の年輪を刻んできました。植えた苗木が大地にしっかりと根を張るように、私たちの会も会員の皆さんの協力によって、枝葉を伸ばし大木をめざすことを夢見ています。また、会の活動の創意工夫が組織の活性化と発展につながります。森林の植性遷移と同じように時の流れと変化に沿って会の進化がなければなりません。

平成14年度は役員も改選され、会員の皆さんの参画によって、新しい発想で会の活動が運営されることを望みたいものです。そのことが、森林のギャップ更新を例にあげるまでもなく、会の多様性（会員の多様なニーズに応える）を維持することだと思っております。

1月以降の活動

- | | | |
|----------|-------------|---------------------|
| 1月18日（木） | 10:00～12:00 | 1月の森の観察会（開拓記念館前集合） |
| 1月19日（土） | 14:00～ | 役員会（環境サポートセンター） |
| 1月20日（日） | | 広報誌「エゾマツ」59号 発行 |
| 2月24日（日） | 10:00～14:30 | 冬の森の観察会（野幌森林公園大沢口） |
| 3月19日（火） | 18:30～ | 役員会（環境サポートセンター） |
| 3月24日（日） | 10:00～12:00 | 野幌早春の森観察会（開拓記念館前集合） |

会員の声

小樽の裏山

小樽市 北原 武

小樽の市街地を、屏風のように取り囲んでいるなだらかな山並みは、古くから街を守り、市民を育んできた。標高 500 ~ 600 位の海に面したこれらの山々は、私たちの自然観察会のホームグラウンドでもある。今日まで行った観察会を通して、思いつくままを記してみたい。このころ、ほとんどの山林は手入れ作業が、行われなくなってしまった。一本のカラマツ立木は一本の大根と同じ値になってしまい、人もお金も山から逃げ出してしまって久しい。これらは、もっぱら自然の力に頼るしかない。そんなことをぼんやりと考えながら、記憶に残るいい景観を拾ってみると

塩谷丸山のハクサンチドリ、エゾシオガマと、眼下のカラマツ林。
遠藤山付近のシラカバ、ダケカンバと、天然生林。

オタモイ海岸岸壁のキキョウとオショロソウ。

赤岩山のオオカメノキ、ムラサキヤシオと青い海原。

穴滝の幽玄と広葉樹の紅葉。

松倉岩のエゾムラサキツツジ。等々。

その他、覚え立ての難しい名の草花がいくつもある。これら地帯の共通の立地条件は、湿気がありながらも水はけが良く、上層部が適度に空いていて、陽光が入りやすいこと。つまり、樹林帯ならば間伐材が、笹ワラならば笹刈りが、定期的に行われるような所である。林内ならさしずめ、径路沿いが、これに近い環境を保っている場所といえよう。径路は単に歩くだけの施設ではなく、道端の日当たり面などは貴重な種が、次の出番を待っている未知の領域なのかも知れない。昔、「径路造林」という天然下種更新の一手法があったことを思い出すが、山林内の径路は、やがてそれが廃れてからでも、意外な穴場であることは、しばしば経験することである。そういった大切な径路を守るため、現在なお、案内標識が立っている

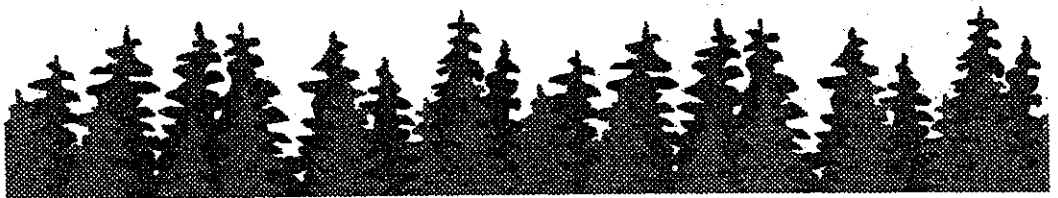
ところについては、公費で笹草刈りだけは、きちんと行うべきであろう。わたしたちボランティア・レンジャーでも、できるのなら、やってみたいと思いつつも、自信が無く手が出せないでいる。なお、当地域にはバブル期のコマ切れ分譲地が林内に残っていたり、隣接地にある桃内ゴミ処理場は、さらに拡大化を迫られ、その上、北海道新幹線やバイパス計画など、巨大プログラムが静かに進行中である。今日、目の当たりにする小樽裏山の勝れた景観は、人為的な力が加わって、壊されなければ良いが、と危ぶまれてならない。もう一つは、近郊にこんなにすばらしい自然があるということを知ってほしいのです。その上、ストレス解消に、山歩き程良いものはないのだから。当面、私たちに出来ることは、より多くの人々と山を歩き、直に自然に触れ本物を見る目を養っておくことではなからうか。これからは、そんな心算で出来るだけ多く機会をつくりたいものである。

豊かな自然を育む町

上砂川町 本間 重吉

私の住んでいる町は自然に恵まれた山河を永遠に残す町。と昨年、当会の顧問、佐々木幸夫氏に多用なところ来町願い、6時間に渡り現地で直接樹木・植物に対し詳細な説明と指導していただいた。さらに補足のお話に分人たちの考え方では自然を残すことは無理と深く反省。

毎年、固雪になると上砂川の稜線を健康のためと樹木を眺め春の息吹を感じ一巡し、昨年、出会った動物が顔を見せるか楽しみです。今年はさらに樹木の忌み枝を切除し、自然態の樹形を一本でも残し、恵まれた山河であることを願っています。



当麻町 野呂 一夫

「草を褥に木の根を枕 花と戀して九十年」。これは、日本植物学の父と称される牧野富太郎博士のうたです。この、「花と」で、博士と花は相思相愛の仲であることが分かります。私もそうありたいと、今日まで花を相手にしてきましたが、未だに「花に」、つまり、片思いでしかないのです。ではあっても、一人でも多く花と恋する人を増やしたい。そして自分も、今年もまた黒い土が顔を見せるのを、心待ちにしている今日この頃です。

帯広市 小野寺 実

夏を中心に観察会などを通じて、十勝の自然の大切さを学んでいる日々。しかし貴重な観察地が、道路工事などで失っていかうとしている現状。エゾサンショウウオなどの生息する「若葉の森」、貴重な河川生物の豊かな「稲田の森」。また、海岸植物の一級地である「トイトッキ海岸」など。心ある人達が次世代へその豊かさを継いでいきたいと保全に努めている。私たち、ボランティア・レンジャーの活動も貴重な自然があればこそ可能であり、これらの工事の行方を心痛めながら見守っている、この頃だ。

山のトイレについて

札幌市西区 鎌田健治

ツアー登山ブームですがトイレの問題が深刻になってきてます。登山口、避難小屋、テント指定場所には必ずトイレを設置する。また、行動中の用便は各自で簡易ビニール袋で始末し、登山口まで持ち帰ると、大自然を汚さずに環境汚染防止になると思います。最近の避難小屋、テント指定場所の汚れは目を覆いたくなります。上記のことを実現できればと思っている。

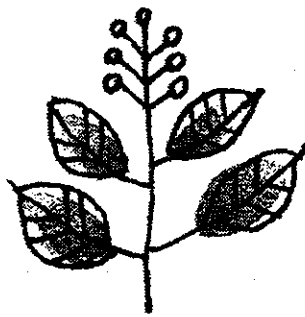
釧路市 佐々木 文雄

この時期になると、とりわけ古里樺太のことが思い起こされます。

紀元節（いまの建国記念の日）頃は、もっとも寒い時期でスキー遠足やスキー大会の最盛期でありました。かじかんだ手で、ストックを引きづりながら、泣きべそをかいてゴールしたことが、つい昨日のようです。やがて、陽春 3 月、かた雪を渡りながらの登下校、猫柳の芽吹きに春の近いことを知り、小さなまさかりを持って福寿草や行者胡を採りに行って、春の感触を実感したものです。まさしく、北国の春は、自然そのものでありました。

秋期講習会を終えて 丸瀬布町 佐野 亮二

北海道ボランティア・レンジャー協議会・オホーツク支部、秋期講習会が昨年十月十三、十四日の両日、北見市若松自然休養センターで実施されました。富良野市別海町からの参加者も含め十名で、一日目は北見地方の高山植物と星空観察について研修。懇親会では好奇心いっぱいの自然大好き人間の集まりとあって、おおいに盛り上がりました。二日目は小林研修部長による現地研修で、何でも教材になる豊かな自然の中で、とても充実した二日間の講習会でした。皆さんありがとうございました。



1年間を振り返り

研修部 小林英世

13年度は新たな試みとして、支笏湖にて宿泊研修を行ないました。今後の問題点として講師、宿泊料金、周知方法などの点で考えていかなければならないと思います。また、地方の観察会開催のための足がかりの年として、オホーツク支部主催の研修会への参加も行ない、観察会開催に向けての話し合いを行なってきました。その結果14年度に北見と富良野において観察会を開催する事にしました。また、一昨年より行なっていた資料の配布が、ネタ不足で中断している現状です。会員相互の力量アップの為にも皆さんの協力をお願いします。この1年の観察会を振り返れば、いささかマンネリ気味の観察会となっている感じも否めないと思います。小樽ボラレンのサポートがなかなかできず、北原さんはじめ支援の会員の方々には大変ご迷惑をかけており、今後考えて行かなければならない問題の一つだと思います。なにぶんにも現役の私としてはこれ以上の活動を広げるのは限界があり、会員の皆さんの活発な活動を期待するところです。ボランティアレンジャー育成研修会において新入会員の勧誘も行ない、一定の成果を納めました。

また、研修担当の理事の方々との打ち合わせを、支笏湖の1泊研修のみの話し合いでしか行なっていなかったため、今後年数回開催したいと考えています。

今後、地方での観察会を増やして行きたいと考えていますので、協力をしてくれる地方会員がいれば研修部小林まで連絡下さい。

この一年間を振り返る

広報部 稲葉 孝徳

平成13年度は広報誌を57号から60号まで発行し、活動計画も終了します。これも、会員の皆様方から、投稿していただいたおかげです。心よりお礼申し上げます。自然をこよなく愛し、大切にしたいと考えている私たち。当会の仲間達は、道内はもとより熊本県にまで及びます。個々の情報を集約し、会員同士で共有することが出来れば、どんなに素晴らしいことでしょう。4月の定期総会を除き、なかなか会員同士が交流する機会は少ないと思いますが、広報誌「エゾマツ」を活用していただき、活発に意見交換や情報交換の場としていきましょう。



AERA Mook

植物学がわかる

朝日新聞社 2001. 7. 10日 新

定価 1200円+税

春のいぶきを感じると、森への訪れに期待がふくらみます。毎年、同じ場所を訪れても樹木や野草への新しい発見や疑問が生まれます。樹木や野草の種名のみならず形態やその構造がわかると、より森への親しみがわいてきます。

地球上には約25万種以上の被子植物が生存していると言われています。動物とはちがい移動できませんから、それぞれの生育環境に適応した形を発達させてきました。形の多様さにはありますが、植物の特徴は根、茎、葉の3つの器官を基本としていてあとはその変形した器官ばかりといってよいでしょう。花も茎と葉の集まりであることからこのことが理解できます。根、茎、葉の3つの器官を基本としているが故に植物は柔軟自在、臨機応変な体を作り上げています。

本書の「植物の形づくり」の章に次の項目があります。

根…「動物と共通する遺伝子が関与」 植物は、地上にでていいる部分と地下に隠れている部分によって構成されている。地下部分は根とよばれている器官で植物の体勢を支えている。

茎…「茎はなぜ細くて長いのか」 植物ホルモン、ジベレリンは茎の伸長促進ホルモンだとばかり思っていたが、じつは茎の肥満防止ホルモンだったのである。

葉…「平たい構造をきめるメカニズム」 なぜ葉は平面構造をとるのか？それはもちろん、光合成をするためである。光を最大限受け止めるためにはシート状で広い面積をもつことが望ましい。

植物の特徴の二つめは、場所を移動することができないということです。ある場所に落ちた種子は、そこで一生、雨が降っても、雪が降っても生活しなければなりません。このため、植物は進化の長い過程のあいだに、環境に対応するさまざまな

能力を得てきました。

物理的（低温、高温、乾燥など）、化学的（塩性の土壌など）、生物学的（ウイルス、細菌、カビ、昆虫など）環境ストレスに対し、どのようなしくみをもって応答し、生き延びてきたのかは大変興味深い問題であります。また、環境への対応プログラムをつかさどる遺伝子が明らかになれば、その遺伝子を強化することによって耐乾性、耐低温性、耐塩性のつよい植物を作ることも夢ではないでしょう。

本書は現代の植物学の先端研究の紹介は勿論、「植物学のキーワード50」、「植物学がわかるブックガイド50冊」、「植物学関連のホームページ」の項もあり、植物学を学ぶための手掛かりになる一冊です。



— 平成14年度 第17回定期総会のご案内 —

事務局より各会員の皆様にご案内がなされてる通り、平成14年度の定期総会が開催されます。会員各位のご参加をお願いします。

日 時 平成14年4月6日（土） 13:00~より受付

場 所 かでる2・7 710号室（札幌市中央区北2条西7丁目）

日 程 ・研修会 13:40~14:40

講演 自然を親しむ

（北海道自然環境自然体験課 長尾 康 氏）

・総会 15:00~17:00

・懇親会 17:30~19:30

会場 ユック（札幌市中央区北1条西5丁目興銀ビル地下1F）

私の一名山

富士山登山雑感

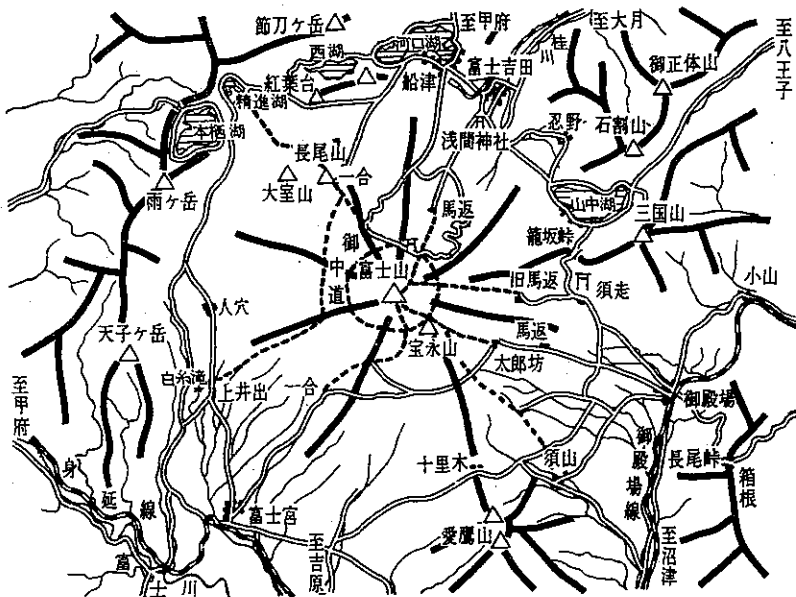
函館市 桶田岩男 72 才

平成 13 年 7 月 14 ~ 15 日の 2 日間で、富士登山ツアーに函館から 6 人参加した。北海道から 20 人で羽田空港に集合し、バスに乗り換えガイドの案内を聞きながら、富士山の五合目まで行き、休憩所で登山の準備をして午後 3 時 50 分頃登山開始。六合目辺りまでは、木も草も生えていたが七合目の山小屋に到着する辺りになると、木はほとんど生えていなく、数えるほどしか見当たらなくなった。山小屋に 7 時頃に着いて、夕食はカレーライスであった。資材と運搬の関係上、カレーと決まっているようだ。午後 8 時頃、仮眠。一度に 100 ~ 200 人ぐらい仮眠するので、寝返りも出来ないほど詰め込まれて、然も、男性は屋根裏で起きると屋根裏に頭がぶつかる状態である。まだ寝るまもなく午後 11 時頃には先着のグループが山頂を目指し、出発のためガヤガヤと起き出して準備を始めるため、私たちのグループも皆起きて出発準備。午前 0 時頃、頂上に向かって出発する。

真っ暗なので、懐中電灯を持つ人、ヘッドランプをつけている人、様々ですが振り返ると、何とホテルの行列のようで見事な眺めである。然し、そんなのんきな状況だけではなく、登山道はラッシュアワーである。考えられないようだが本当に驚いた。頂上で御来光を拝むため、その時間にあわせて登るために、どうしても、頂上近くになるほど混んでくるそうです。肩がぶつかる状態で登ることも、何回もあった。それに外国人が多いのには、また驚いた。日本に行ったら富士山とは言わずフジヤマに登るのが、一番自慢と思い出になると聞きました。日本人でも、なかなかチャンスがないと登れないかも知れないので、納得できるような気もするが、登山者の 70 % が女性で、然も、50 代 ~ 60 代の女性が多いと聞いて、女性パワーの偉大さに恐れ入った次第。女性が強いのは平和の印かなと? 痛感し

ました。頂上に午前6時頃にやっと到着したところ、人で人で、一杯のため休憩するところもないほどで、帰りのバスの時間もあり、下山道へと向かった。

下山道は登山道より道幅は広いが、火山灰なのとへトへトに疲れが重なって、一步で二歩分ぐらい滑る状態で下山した。というより、滑り降りたと言った方が正しいかも知れません。無事五合目まで着いて、また驚いたことは、富士山登山の最高齢は103才と聞いて、然も男性です。女性パワーに負けられないこれからも、いろいろと挑戦する意欲を持ちたいものだと痛感させられました。



— 富士山 (3776m) メモ —

世界にはそれぞれ名山がある。しかし富士山ほど一国を代表し、国民の精神的資産となった山はほかにないだろう。「語りつぎ言ひつぎゆかむ」と詠まれた万葉の昔から、われわれ日本人はどれほど豊かな情操を富士山によって養われてきたことであろう。もしこの山がなかったら、日本の歴史はもっと別な道を辿っていたかもしれない 日本百名山 (深田久弥) より

私 の 一 名 山

—羊蹄山(蝦夷富士) 1893m—

札幌市 川 端 功 治

この名山の呼び名は「しりべし山」とすべきではなかったかと、かの百名山著者で有名な深田久弥氏が異議を唱えており、謂われについて植物写真家の梅沢俊氏は著書の「夏山ガイドNo.1」で次のように記述しています。

「富士山そっくりの成層火山で日本書紀に659年に安倍比羅夫が後方羊蹄に政庁を置いたと記され、松浦武四郎がこれをもとに山の名を、後方羊蹄山(しりべしやま)と名付けた。

後方(シリへ)羊蹄(シ)で、シは雑草のギシギシの古名だそうだ。文字からは想像のつかない読みだ。それ故か文字どうりの読みで「ようていざん」と

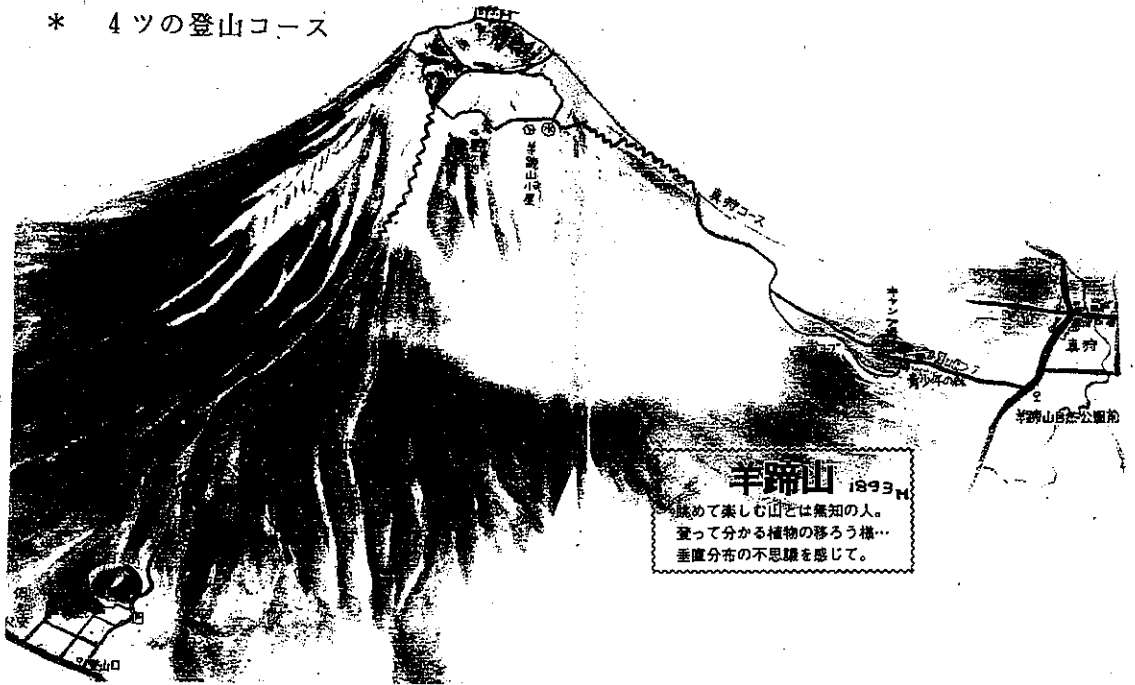
呼ばれるようになり、それが今では正式な名称になっている」と同氏も訝っています。アイヌ名はマッカリヌプリ(別名クマネシリ—女の山—雌の山)因みに前方羊蹄山は(尻別岳—アイヌ名ピンネシリ—男の山—雄の山)東側に屹立する私の転勤先が倶知安、であったので、町民の誇りであるこの名山の正式な呼び方を特訓してくれた先輩自身が、酔うと「ドンと来いエゾフジ・・・」とか、

「夕日に染まるヨウテイ(羊蹄)の・・・」と歌うので、適当に手拍子を合わせているうちに、何時の間にか、正式な山の語源を忘れてしまった今、突然に深田久弥氏の一言、チクリと刺されてハッと昔を思い出した次第です。

けれども現在は山元の住民が愛称する「羊蹄山(ヨウテイザン)」が正式に公認され「エゾフジ」も愛称として承認されてしまった上に、すっかり定着してしまった今、地元としては深田氏の異議には当惑することでしょう。

ついでに前方羊蹄山と称した東側に並立する1107mの山は俗称の「尻別岳」が正式の名称になり、この頂上から眺める「羊蹄山」の雄姿は素晴らしく、お立ち台と愛称されましたが、現在は開発され「ルスツスキー場」として名高く、シーズンにはスキー客で賑わっております。

* 4つの登山コース



かつては比羅夫コースがオーソドックスな登山路とされて、愛用されましたが、最近では真狩コースが人気を呼んでいるようで、喜茂別、京極の2コースは昔ながらにベテラン、マニアコースとして一般には敬遠されております。

私も度胸不足の人種ですから、喜茂別、京極、コースは斜度がキビシク落石事故の情報に、恐れをなしてパス。その為にこのコースの特長である海拔高毎の植物名リスト作りが容易に出来ると云う楽しみの体験はしておりません。

* 私がオススメするコースのNo 1 (比羅夫コースの真夜中登山)

夏の暑い夜。バス停は羊蹄山自然公園前下車、キャンプ場奥の登山口をスタート。頂上でご来光を拝む為に登り所要5時間として逆算すれば夜10時前に行動開始するのが常識です。なぜに真夜中を選ぶのか？それは体験した者のみを知る醍醐味があるのです。

これは地元で勤務する者の特権で豊富な情報網がキャッチした登山方法です。

私は幸い先輩の推薦である宗教団体の随行が許され、安全で楽しい登山が出来ましたが、常連とおぼしきグループや、初めての単独登山者にも出会い、この時期の名物行事になっているようで、心もとない場合は下記に連絡して指導を受ければ良いと思います。

(倶知安町役場内羊蹄山避難小屋連絡協議会 № 0 1 3 6 - 2 2 - 1 1 2 1)
さて私の随行した一行は白装束で金剛杖を突き、リーダーがロックンショウ
ジョウと叫ぶと、行列の一同は唱和しなければなりません。

始めのうちはぎこちなかった私も旨くハーモニーするようになりました。
「六根（眼、耳、鼻、舌、身、意、）から生ずる迷いの不浄を清浄（ショウ
ジョウ）する為に唱える仏語。」

300 ㍎の海拔高からスタートするから、正味1500 ㍎をシグザグ曲がり
とキビシイ斜度の連続で、殺風景な岩石地帯で「モウ登ってヤランゾウ！」と
わめいた登山者が居たとか。なんとなく判るような気もするのは、美しい高山
植物に乏しい岩石地帯のジグザグ登りはウンザリする事もあるからでしょう。

その点真夜中登山は、始めから何か珍しいものが無いかとキョロキョロする
ことはありませんし、ヘッドランプを頼りに只ひたすらに足を運ぶだけであり
ます。

「ロックンショウジョウ」の単調な繰り返しの音調は、何時の間にか無念、
無想の境地に誘うから不思議であります。

頂上をきわめ、登り始めた旭日に思わず手を合わせ、生きていることの幸せを
全身で感動する、ひとときを味わうと、何度でも登ろうとする意欲が湧きます。

* 私の推薦する登山コース № 2 (真狩コース) - 春山滑降 -

夏山のこのコースが好評なのは、緩いカーブを入れ、お花畑の見せ場があって
退屈させない心配りが疲れを忘れさせるので、比羅夫側より、容易で楽しい感じ
ですが、私が特に推薦するのは、春山の締まり雪滑降の、素晴らしさです。

厳寒峻烈を極めた霊山も春ともなれば、穏やかなゲレンデに変身するのが不思
議なくらいです。麗らかな晴天の日和には沢山のスキーヤーで賑わいます。

* アドバイス

1. 当然の事ながらゴンドラやリフトはありませんから、自力で1800 ㍎を
(実質1500 ㍎) 登り切らなければなりません。登り5時間はキビシイ
けれども下りは自由滑降ですから、好みの地点から折り返して下山の人も
見かけるところが夏山登山と違う風景です。

2。用具によりそれぞれ得手の登り方をします。

+いま流行りのボードは背負い、つぼ足で直登。

+踵の上がる山スキーはシールを付け斜登になりますが、ラッセルの都合で一般ゲレンデスキーヤーのペースに合流させられツボ足ラッセルの交替要員に要請されることがあります。歩くスキーは登山用の履物が必要。

+ゲレンデスキーの参加者が圧倒的に多いので一口アドバイス。

今流行りのカービングスキーはその威力を発揮しますのでお勧めですが、ストッパーの効きの悪いスキーは山スキーの真似をして紐で靴に繋ぐこと逃がしたスキーは岩石に激突したり、急斜なので林中を滑落するとヤバイこととなります。キックターンで下山出来れば問題はありません。

* 大切にしたいお花畑のスター。



オヤマリンドウ *Gentiana nipponica*
リンドウ科



オダサムタンポポ (タンポポ属)
Taraxacum platyepidum Diels きく科

+オダサムタンポポ (エゾフジタンポポ) —キク科 (避難小屋付近に多い)

羊蹄山の特産とされているがクモマタンポポ (大雪山) に近似する。

+オノエリンドウ—リンドウ科

本州中部高山の特産種。 お鉢巡り (頂上噴火口巡り一時間) で散見。

* 道内の各高地でも見られる花達。

+キク科

タカネニガナ ウスユキトウヒレン (タカネキタアザミ) タカネニガナ

+キキョウ科

イワギキョウ

+タデ科

ヒメイワタデ

+バラ科

メアカンキンバイ

ミヤマキンバイ

+ゴマノハグサ科

イワブクロ

+ツツジ科

コメバツガザクラ

エゾノツガザクラ

キバナシャクナゲ

* まとめ

+容姿端麗と云う言葉はこの山に相応しい。JRの車窓から見ても、中山峠から眺めても美しいが、やはり後別岳の頂上お立ち台からの展望は、その雄大さに圧倒されて、誰しも絶句する。実質700分、の登山は容易です。

+一夜にして貴方を聖人君子に改造する比羅夫コースの深夜登山をお勧めします。もっとも六根の清浄を怠れば、元の木阿弥に戻ることも保証付きです

+夏は真狩コースは楽しく登れますが、春山のスキー登山はより楽しい滑降が出来ます。弾丸のようにブツ飛ばす若者、岩塊を回転の旗替わりに見事なスラロームをするテクニシャン。さながら悠久の大義に生きる風情の自然観察者等は大きく、円を描いて高度を下げる知能的滑降。春ともなれば麗らかな、

スキー日和り。巨大な締め雪のスロープが、元気な貴方をお待ちして居ります。

*情報紹介先

ノマドツアーKK（札幌市中央区南2条西6丁目一閣ビル

山岳部 ☎ 011-261-9174

FAX 011-261-2019

例年各団体 4月20日前後に実施

*引用した資料

花の散歩道（続）梅沢 俊 北海タイムス社

夏山ガイド（1）梅沢 俊 北海道新聞社 他

キーワード



生物多様性

最近、「生物多様性保護」の重要性が叫ばれています。それは、生物界の攪乱が世界規模で広がっていることにあります。「生物多様性」とは、1992年リオデジャネイロで開催された地球サミットで署名され1993年に発効した「生物多様性条約」（生物の多様性に関する条約）に関連があります。この条約は、世界的な規模で進行している生物多様性の減少に各国が協力して歯止めをかけるべく基本方針を定めたものです。

日本もサミットの席上で署名し、翌年に批准しました。第1条目的には「生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝子資源の利用から生ずる利益の公正かつ公平な配分を実現する」ことがうたわれています。遺伝子資源の利用とその利益の公平な配分（途上国の遺伝子の資源を利用して得た利益の還元方法の問題等）というところに生物多様性保護に収まらない現実の厳しさがのぞいています。

第2条用語に生物多様性の定義として「すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息種又は生育の場のいかなを問わない）の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」が記されています。

また、生物資源の内容としては「現に利用され若しくは将来利用されることがある又は人類にとって現実の若しくは潜在的な価値を有する遺伝資源、生物又はその部分、個体群その他生態系の生物学的な構成要素を含む」と規定されています。

条文ですので、書かれている内容を理解するのに困難を伴いますが、生物多様性は自然保護のキーワードですし、三つのレベルに分けて捉えることができます。

(1) 遺伝子レベル

生物の体内にはさまざまな状況に対する遺伝情報が貯えられています。今後、どんな種のどの遺伝子が役立つのか、あらゆる可能性が開けているといえます。そこでこの遺伝子レベルの多様性を潜在的な遺伝子資源として捉えて、将来の利用のためにできるだけ残そうという考えです。

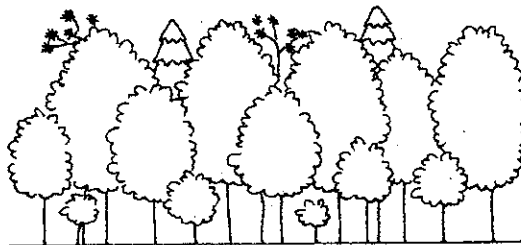
(2) 種レベル

現在地球上には動物104万種、植物25万種、菌類7万種に微生物を加えると既知の生物が約140万種存在していると言われていています。未知の生物を加えると数千万種の種が現存していることが推測されます。地球上に現存する多様な種を残すことが重要です。

(3) 生態系レベル

生態系というまでもなく、さまざまな生物の生息・生育地です。生態系をまるごと保全することで、そこに棲む種の多様性、またその種のもつ遺伝子の多様性も守られることから、生態系の保全こそが自然保護の基本であるという考えです。

生物多様性条約では、生物多様性の保全と持続可能な利用のための各国の取り組みを「国家戦略」として定めることが勧告されています。これを受けて日本も1995年に「生物多様性国家戦略」を決定しましたが、内容は各省庁の持ち寄ったものを列記したにすぎず、特別な予算も法的な裏付けもなく実効性に乏しいのが現状です。



平成14年度に主催・協力する自然観察会

観察会の名称	日	時	下	見	集 合 場 所	備 考
4月の森の観察会	4月18日(木)	10:00~12:00	4月11日(木)	10:00~	開拓記念館前	協力
ありがとう 自然観察会	5月12日(日)	10:00~14:30	5月11日(土)	10:00~	野幌森林公園 ふれあい交流館前	共催
野幌自然観察会	6月2日(日)	10:00~12:00	6月1日(土)	10:00~	森の自然教室前	共催
恵庭自然観察会	6月16日(日)	10:00~12:00	6月15日(土)	10:00~	恵庭公園駐車場	主催
富良野 原始が原自然観察会	6月30日(日)	10:00~12:00	6月29日(土)		南部さん中山さんと打ち合わせ中 前日懇親会と下見	主催
7月の森の観察会	7月18日(木)	10:00~12:00	7月11日(木)	10:00~	野幌森林公園 ふれあい交流館前	協力
真駒内自然観察会	7月28日(日)	10:00~12:00	7月27日(土)	10:00~	地 下 鉄 真駒内駅前	主催
夏の森の観察会	8月11日(日)	10:00~12:00	8月10日(土)	10:00~	開拓記念館前	協力
利根別自然観察会	8月25日(日)	10:00~12:00	8月24日(土)	10:00~	大正池駐車場	主催
野幌自然 観察の集い	9月8日(日)	10:00~12:00	9月7日(土)	10:00~	森の自然教室前	主催
9月の森の観察会	9月19日(木)	10:00~12:00	9月12日(木)	10:00~	開拓記念館前	協力
北見自然観察会	9月22日(日)	10:00~12:00	9月21日(土)	13:30~	北見市若松 休養センター前	主催
宿泊研修 然別湖	10月5日~ 10月6日				ホテルふくはらを予定 詳細後日	
秋の森の観察会	10月20日(日)	10:00~14:30	10月19日(土)	10:00~	野幌森林公園 ふれあい交流館前	協力
ありがとう 観察会	11月10日(日)	10:00~12:00	11月9日(土)	10:00~	野幌森林公園 ふれあい交流館前	共催
12月の森の観察会	12月19日(木)	10:00~12:00	12月12日(木)	10:00~	開拓記念館前	協力
冬の森の観察会	2月9日(日)	10:00~14:30	2月8日(土)	10:00~	野幌森林公園 ふれあい交流館前	協力
野幌の冬の森	3月23日(日)	10:00~12:00	3月22日(土)	10:00~	開拓記念館前	主催

2002年度小樽地区自然観察会の計画

(北海道ボランティア・レンジャー協議会、小樽地区、北原、記)

No.	月/日(曜日)	行き先	備考
1	2/23(土)	天狗山～オコバチ川を下る、	山スキーで歩行、
2	3/16 "	奥沢水源地～裏山付近	カンジキで歩行、
3	4/27 "	赤岩～オタモイ海岸、	春の息吹、
4	5/25 "	勝内川上流～松倉山方面	春植物、山菜、野鳥等、
5	6/8 "	神居尻山(貸切バスの予定)	花の名山、(当別町)
6	7/6 "	塩谷丸山	初夏の草花、
7	8/3 "	藻岩山	原生林の樹木、
8	9/28 "	余市岳	秋の装、
9	10/5 "	オコバチ山～穴滝～天神町	紅葉、キノコ、兼ゴミ拾い
10	11/9 "	市有林内、後、納会、	カラマツ林の黄葉、

- 参考：1、約1週間前に新聞(道新小樽版、読売金曜日夕刊)に集合場所、時間等掲載の予定
 2、天候外の都合で、日時等変更する事がありますから、事前に申し込みねがいます、
 3、参加料は、1人200円です。(当日受け付けにて)
 4、自家用車の方は、事前に連絡願います。(駐車場の状況外)
 5、申し込み、問い合わせ等は、0134-27-1701北原迄、

編集後記

◆年が明けてから雪の少ない日々でした。昨年のもりの豪雪がうそのような感じの今年の冬でした。森の木々の芽もはちきれんばかりです。春の観察会のシーズンもすぐそこです。

◆日本経済の再生が叫ばれ構造改革の推進と変革が求められている時代です。従来のシステムでは機能しなくなったのでしょう。私たちの会も今まで行ってきた活動を精査検討して、社会の流に沿う計画を立てる必要があるでしよう。そんな機会が総会だと思っております。

◆広報誌「エゾマツ」も60号の発行にこぎつけました。これを機に紙面構成や体裁の検討を行い、「エゾマツ」に対する会員の皆さんの要求に答えて行く時期にきていますので、新体制の中での検討課題です。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」No.60 2002. 3. 30 発行
発行責任者 川端 功治

